

高槻ミューズ・  
堺キャンパスで  
「関大防災DAY2011」

## 巨大地震に伴う火災、津波も想定して避難訓練 ～広がれ！みんなの安全・安心～

関西大学では全学を挙げて、防災への取り組みを強化している。2011年10月4日の千里山キャンパスでの「関大防災DAY2011」に続き、11月9日に高槻ミューズキャンパスで「関大ミューズ防災DAY2011」を、11月29日に堺キャンパスで「関大堺キャンパス防災DAY2011」を実施した。いずれも「広がれ！みんなの安全・安心」を掲げて、大規模な地震避難訓練を行った。

### 関大ミューズ防災DAY2011



高槻ミューズキャンパスで11月9日、学生・生徒・児童と教職員および児童図書館などを利用中の一般市民を対象にした地震避難訓練を実施した。

約1,000人が参加した訓練では、授業中に高槻有馬構造線活断層を震源地とするマグニチュード7.3の巨大地震が発生し、西館8階のリフレッシュコーナーから出火したと想定。初期消火、避難誘導、安否確認などの訓練を行ったほか、高槻市消防本部によるタンク車を用いた



放水訓練、はしご車による救出訓練なども行い、高槻市と連携して地震発生時の避難体制をあらためて確認した。

初等部、中等部、高等部と、日本初の社会安全学部および大学院社会安全研究科を有する高槻ミューズキャンパスは、高槻市が提唱する「安全・安心のまちづくり」に寄与するため、防災機能を備えるとともに、災害時の緊急避難場所としての役割を担っている。

### 関大堺キャンパス防災DAY2011



堺キャンパスで11月29日、学生・教職員・地域住民ら約800人が参加し、同キャンパスで初めての地震避難訓練を実施した。

授業中に和歌山県沖を震源地とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生、大阪府沿岸に大津波警報が発令され、100分後に最大6メートルの津波が到達する可能性がある



と想定。堺キャンパスが地域の避難所に指定されていることから、本訓練は堺市との地域連携事業の一環として、堺市危機管理室や地域の自治消防組織などと協力して行われ、地域住民や堺北幼稚園の園児たちも参加した。津波避難訓練での高所への移動では、消防隊員や本学職員の誘導のもと、学生が幼稚園児らと一緒に避難するなど、現実起こり得る状況を想定して行われた。

また、バケツリレーによる消火訓練、煙体験、救急体験、炊き出し訓練など、さまざまな体験イベントもあわせて行われた。

### ◎「大阪マラソン共同調査研究」 杉本厚夫・人間健康学部教授らが調査・分析

## 「なぜ市民マラソンか？」 人気を裏づけ、意義と効果を検証する

10月30日に開催された「第1回大阪マラソン」には、フルマラソン27,161人、チャレンジャー(8.8km)2,002人のランナーが参加し、約1万人ものボランティアが活動した。なぜ、これほどまでに多くの人たちが市民マラソンにかかわろうとするのだろうか。また、大会前後で大阪に対する意識の変化は？——関西大学では人間健康学部の杉本厚夫教授を中心に、読売新聞社と共同で、大阪マラソンに関する詳細な意識調査を実施した。



#### ■大規模マラソン大会初の本格的調査

「第1回大阪マラソン」(大阪府・大阪市・一般財団法人大阪陸上競技協会主催)には、関西大学も協賛し、給水ボランティアや語学ボランティアとして多数の学生が参加し、応援団や同好会も応援イベントで盛り上げた。このような大規模マラソン大会での本格的な調査は初めての試みである。



今回は《調査概要》にあるとおり、参加ランナー、ボランティア、観客を対象にアンケート調査を行ったが、回答率が非常に高かった。信頼性の高いデータから、マラソン開催の意義を検証し、地域に及ぼす効果を知ることができる。関西大学と読売新聞社による「大阪マラソン共同調査研究」の結果について、本誌では分析概要をお伝えする。

#### ■参加ランナーについて

「観客の応援がうれしかった」「ボランティアの対応がよかった」と感じている人が非常に多く、ランナーを支えるボランティアや観客との一体感を得ることができた。また、「普段走れないところを走れてよかった」と思っている人も多く、非日常性を担保することは、市民マラソンを開催するときの重要な要素になっていると言える。とりわけ、都市型のマラソンでは不可欠の要素と考えられる。

一方、新しい仲間ができたという人は期待に反して少なく、ランナー同士やボランティアとの交流の機会が少ないことなどがうかがえる。市民マラソンに期待することの一つでもあるので、今後の対応が望まれる。その他、チャリティの趣旨がよく分かったという人が半分にも満たないなど、今後の検討課題も明確になった。

#### ■ボランティアについて

ボランティア活動への参加経験が少ない人が多く、大阪マラソンで初めてボランティアをした人は、他のボランティアにも興味を示すようになった。

思い出や記念のために、あるいは自分自身を高めるためという個人的な理由によってボランティアをする傾向が強く、また、人の世話をするためにという社会的な目的でボランティアをしている人も多くいて、それらの目的は大阪マラソンのボランティアをすることによって達成することができたと言える。

一方、ランナーと同様、人との出会いを求めてボランティアをしている人にとっては、今回の大阪マラソンでは、その機会が少なかったと言える。さらに、趣味や特技を活かせることができなかつたと思っている人もいて、活動内容とボランティアの適性のマッチングが望まれる。

#### ■観客について

観客が応援に来た理由として主なものは、「応援を楽しみたいから」、「思い出や記念になるから」、「大阪を盛り上げたいから」であった。

このことから、多くの観客が「観て」「応援して」「共感」といった純粋な目的で参加し、ランナーへの応援を楽しんでいたことがうかがわれ、地域コミュニティの活性化、郷土愛の喚起という大会目的が観客の側でも受け入れられていたことが分かる。

#### 調査概要

<p>●参加ランナー調査</p> <p>【方法】Web調査</p> <p>【時期】(大会前調査)7月27日～9月14日 (大会後調査)11月1日～11月22日</p> <p>【サンプル数】大会前調査4811人、大会後調査7006人</p>	<p>●ボランティア調査</p> <p>【方法】大会前調査集合調査法、大会後調査郵送(ファックスを含む)とWeb調査</p> <p>【時期】(大会前調査)7月23日、8月27・28日、9月17・18・25日、10月1・2・28・29日 (大会後調査)11月1日～11月22日</p> <p>【サンプル数】事前調査1045人、事後調査1084人</p>	<p>●観客調査</p> <p>【方法】面接調査法</p> <p>【時期】10月30日</p> <p>【サンプル数】467人</p>
---	---	--

※本調査の報告書は、関西大学ウェブサイト(<http://www.kansai-u.ac.jp/global/contribution/marathon.html>)でご覧いただけます。